

平成 28 年度 学校法人 三幸学園 辻学園栄養専門学校 自己評価及び学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 佐藤 俊介

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長 町井 俊彦

1. 学校の教育目標

本校は大正6年に日本初の調理学校として始まった辻学園を母体に、昭和60年3月「調理もできる栄養士」を育成することを教育目標に掲げて開校し、約3700人の卒業生を社会に送り出してきた。平成24年に学校法人三幸学園と合併。学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、食分野の学校として「食を通じて日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、食分野として「伝統に培われた技術と心を高め、食文化を通じて社会に貢献できる人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

この基本理念は、教職員に対しては、教職員手帳に明記し配布しているほか、全教職員が一同に集う「全体会議(年4回開催)」や全国の教職員が集まる研修会である「ビジョンミーティング」や「サマーセミナー」において理事長からの訓示の中で繰り返し唱え、共有化を図っているものである。また、学生に対しては、「入学式」や「スタートアッププログラム」において、校長や教職員からの言葉として示すとともに、本校独自のカリキュラム「未来デザインプログラム」の授業で使用する「夢のスケッチブック」に記載し周知を図っている。このほか、受験生、高等学校、保護者等に対しては、オープンキャンパス、高校訪問、保護者説明会などを通じて伝え、また、パンフレットに明記することにより学内外の周知に努めている。

2. 平成 28 年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

・人間性を高める教育の実践

「伝統に培われた技術と心を高め、食文化を通じて社会に貢献できる人材」を育成することを、目指す人材育成方針とし、単に知識や技術を研究するに留まらず、人間性を高める教育を併せて展開することにより、真に社会に役立つ人材を輩出できると考えている。

例として「礼儀正しく自ら挨拶をする」「専門的な「技術」と「知識」を身につける」「整理・整頓と常に清潔に学校を保つ」といった基本的なことを継続的に指導することを実践している。

・高い現場力の醸成

現場力の醸成を目的に、各学科で重点教育項目を作成し、全教職員への目合わせを行うほか、学科会を実施することにより、教育の行き届きのきめ細かさを図ることにより、質の向上を実現できるよう計画している。そのための考え方として「業界で一目置かれる存在になるための土台作り」をふまえている

3.評価項目の達成及び取組状況

(1). 教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	3
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	4
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	3

① 課題

学園としての理念・学校目標は明確なものになっており、生徒・保護者への周知は行われているが、業界のニーズとの整合性を理解させる上で、共有に不十分な部分が見える。

② 今後の改善方策

教職員については会議、生徒についてはホームルームや日々の指導の中で、「常に意識し継続する」ことを理解させ、「社会人育成の場としての専門学校がある」をふまえた共有を浸透させる。

③ 特記事項

教育理念から人材育成をより体系化するべく、三幸学園の教職員としてのビジョンを「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」と設定し、栄養分野におけるビジョンを「食を通じて、日本を明るく元気にする」と設定した。これらを踏まえて、人材育成方針を「伝統に培われた技術と心を高め、食文化を通じて社会に貢献できる人材」と設定し、全教職員への浸透を実施している。

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・毎年、技能と心の調和をふまえ、社会人育成における心の教育に力を入れていることに関して評価できる。
- ・来校時に生徒からの挨拶やエレベーターでの対応などを見る限り、指導が行き届いていることが実感できる。
- ・専門学校に進学する生徒はゴールが明確な印象がある。20前後の若者が興味を持つことも変わってきていることを考えると、今後の授業運営としては若い世代の興味を引く工夫が必要。

(2). 学校運営

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	3
運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	3
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	3
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	3
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	3
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

① 課題

前年に指摘した全体的な視野で学校運営を考える教員の強化を引き続き継続する。

② 今後の改善方策

総合職に必要な知識の習得機会（自己啓発含む）を設け、常に情報共有を行い、全体的な視野を養う機会を増やす。

業務フローを再点検し、自動化できる業務に関しては情報化し、業務の効率化を図る。

③ 特記事項

年4回、定期的に全教職員に向けて全体会議を実施。また年2回全講師会を実施し、運営方針の浸透と共に、生徒情報共有を実施している。

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・年度毎の運営方針が明確に示されている。
- ・学校運営の組織形態は整備されていると感じるが、組織の機能をより有効的な活用できる努力は今後も継続してほしい。
- ・人事、給与関係等、就業規則は十分整備されていると感じるが、近年の労務管理問題をふまえ業務過多にならないように適材適所の配置を行ってほしい。
- ・方針の徹底が会議等で全職員に行われている点は評価できる。
- ・学内各業務の効率化システムについて、引き続き分野に即した内容の見直しも必要。

(3). 教育活動

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	3
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	3
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	3
関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	3
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	3
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	3
関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	3
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3
職員の能力開発のための研修等が行われているか	3

① 課題

外部との連携や教職員の資質向上に関する体制構築。

授業及び実習先評価の精度向上と教育への反映。

成績評価の基準をふまえた判断を行う際、基準の認識違いが出ていたので統一した見解が必要。

② 今後の改善方策

教職員の校務状況を精査しながら外部との連携に取り組める環境を整備。

外部からの評価がわかる環境整備の実施。

会議を踏まえた評価基準の共有と生徒への対応を引き続き迅速に行う。

③ 特記事項

産学連携の1つとして、「食の第6次産業プロデューサー」講座を継続実施。

商品開発をおこなうことで震災復興の一助と自己啓発に取り組んだ。

④ 学校関係者評価委員会コメント

・産学連携を通じて、カリキュラムの編成や教育手法の開発を行なっているのは今後必ず生きる。

・授業アンケート実施の取組みはより講師の質、授業の質を高めるために、生徒の声にしっかりと耳を傾け、必要とされる教育への精査は継続してほしい。

(4). 学修成果

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
就職率の向上が図られているか	4
資格取得率の向上が図られているか	4
退学率の低減が図られているか	4
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

① 課題

悩みを持つ生徒の増加に伴う対応の鈍足化。

就職に対する意識・意欲低下への対応。

卒後教育の十分な還元。

② 今後の改善方策

生徒面談の強化をし、個々の状況を理解する機会を増やし、対応を迅速化する。

国家試験対策講座(卒業生無料参加)を更にニーズにこたえた卒後教育を行う。

③ 特記事項

28年度退学率 4.6%(前年度 6.5%)

28年度就職率 98%(希望者中前年度 91%)

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・退学率が低下していることは良い傾向に捉えられるので、今後も継続してほしい。
- ・クラスの学生の幅の広さや、モチベーションの多様化はクラス運営の困難さを招く。
- ・生徒のモチベーションを絞っていくことで、担任はクラス運営が容易になるので精査する必要がある。
- ・以前、就職先企業へのアンケート調査を実施し、卒業後キャリア形成の効果検証が必要と提唱したが、まだ不十分に感じるので引き続き検証を行ってほしい。
- ・都市部で急激に学生が増加していることから、今後は学生への個別対応が困難になる時代がくる。これからは退学、就職に対する意識についての課題の抽出と共有および成功事例の共有のシステムを構築する必要がある。個別対応ではなく大規模対応へのシステムをつくる必要がある。退学の理由として経済的な理由、精神疾患など職員で対応できないものもある。長期の不登校学生を無理に在学させると逆にストレスとなり学校を訴える場合もある。ある意味ドライになり全体の底上げを目指すべき。
- ・就職はベストマッチが最重要であり、これは就職先、職員、生徒がうまく連携がとれなければならない。この連携に失敗すると卒業生が業界へ不信感を抱くことになり、業界離職率増加につながる。連携は常に意識してほしい。

(5). 学生支援

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	3
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	3
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
課外活動に対する支援体制は整備されているか	3
学生の生活環境への支援は行われているか	4
保護者と適切に連携しているか	4
卒業生への支援体制はあるか	3
中途退学者への支援体制はあるか	2
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	3

① 課題

- ・指導面でクラス間の誤差。
- ・心理面からくる不安定な生徒への対応。

② 今後の改善方策

- ・担任を含む教職員全員に生徒指導における方針を常に理解し、実行していくことを促す。
- ※結果を出したことに対する好評価へのアプローチと出なかったことに対するフィードバックの徹底。

③ 特記事項

- ・保護者との連携を構築するための保護者会や就職決起大会・ホームルームをふまえて生徒の目標達成に向けた環境を構築していく。
- ・卒後教育の一環として管理栄養士国家試験対策講座を卒業生は無料で実施。前年比 120%の参加率となったので今後も継続する。

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・卒業生の無料講座は卒後教育にとっても有効。国試の合格率アップにもつながると思われ、活躍できる卒業生も増えることも期待できる。
- ・担任との連携が深くなる保護者会は保護者に安心感を与える印象が強い。他校と比べても手厚い対応に感じるので今後も続けてほしい。
- ・人間関係は就職後に躓くものの1つ。しかしこちらが気に掛けすぎると逆に拒否されることもある。この業界が好きで入ったはずであるが、コミュニケーションが苦手で離職する者もでる。対人関係の訓練はこれからも必須。これは卒業生を受け入れる現場の声として受け止めてほしい。
- ・担任力の向上は生徒の学校生活の充実にもつながるので強化は続けてほしい。

(6). 教育環境

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	3

① 課題

- ・校外実習後におこる生徒の心境変化への対応
※自身のこれからの進路について

② 今後の改善方策

- ・実習終了後の振り返りで現実と理想の中でどう自分のモチベーションを保っていくかを考えさせ、それに対するフォローを職員が意識していく。

③ 特記事項

- ・外部との連携を踏まえた講習・体験実習を増加し、学外での教育体制を更に強化していく。
※スポーツ栄養実習を外部企業との連携で実施。

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・災害対策は今後の予測をふまえ、緊急時避難訓練は実施を継続してほしい。
- ・学外実習後の生徒フォローについては、自身の目標を今一度認識させ、モチベーションの低下を防ぐ対応を行ってほしい。学外実習を受け入れている現場としての意見。

(7). 学生の受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	3

① 課題

入学後の勉強内容への対応

※入学前で勉強内容のイメージギャップ。

② 今後の改善方策

在校生の声を活用し、勉強のイメージを持たせ、卒業生の声で業界へのイメージを持ってもらえるように工夫する。

入学前イベント(11月実施)・オリエンテーション(3月)で勉強面及び学校生活面に分けて継続実施し、入学後のギャップを少なくする。

③ 特記事項

28年度に向けた 入学前オリエンテーション・保護者会を実施

入学前オリエンテーション 出席率 100%

保護者会 出席率 60%

H28年 117名入学(定員 160名)

H29年 141名入学(定員 160名)

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・授業外のサポート体制を教育成果として伝えていくことが募集にもつながるので開示を強化してほしい。
- ・奨学金を利用する生徒が増加している現状を踏まえ、生徒に安心して授業を受けれる学費サポートは多種継続してほしい。近年の金利が低下している現状は借りる上において好ましいが、生徒間の経済状況に違いがあるので、手厚い対応を求めたい。

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

中長期事業計画は2012年に策定したが、当該計画は前倒しで終了しているため、今年度に更なる中長期計画を策定する必要性がある。

【予算・収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

ホームページ上の公開については抜粋版が公開となっているが、今後は事業報告などの詳細な情報の公開が必要。

② 今後の改善方法

【中期計画】

今年度到新中期計画を策定する予定である。

【財務情報の公開】

今年度よりホームページ上の法人の事業報告書を公開する予定である。なお、当該報告書には財務情報にかかる詳細データを掲載する事となっている。

③ 特記事項

なし

【委員コメント】

・2011年の民事再生後から健全性の向上は顕著に感じる。

今後も継続して透明性を保ってほしい。

(9). 法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	3
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	3
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	3
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

自己評価で出た課題の解消に取り組めるシステムの構築不足。
コンプライアンス順守のチェック体制が十分でないところあり。

② 今後の改善方策

情報を共有し、チームを構築して課題解消に取り組む。
また会議や掲示物等を通じて、全ての職員のコンプライアンスに対する啓蒙を継続的に図る。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

・法令や設置基準の遵守は当然だが、個人情報保護については、漏えい防止を含めた職員の研修会を増やすなど、更なる体制強化を進めていくことが重要。
・外部意見は本委員会を含めて積極的に活用すること必須。それがより教育の質を高めるための方策となる。

(10). 社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	3
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	3

① 課題

依頼がある際の活用は行えているが、学校からの呼びかけがまだ少ない。

② 今後の改善方策

学校として行える地域貢献を考え、学校側からのアプローチを積極的に実施していく。

③ 特記事項

28年度 社会貢献

枚方市ゴミ減量フェアにブースを展開。

交野市及び尼崎市の特別養護老人ホームで入所者に対して祭りのボランティア実施。

地域貢献

大阪市北区主催の食育展に参加。

尼崎市の小学校及び大阪市の保育園・幼稚園で在校生による食育の特別講義を実施。

④ 学校関係者評価委員会コメント

・昨年度以上の地域・社会貢献が行われていて今後も継続を求めたい。

・社会性を養うためにも外を見ることは重要。学校のアピールにもなるので積極的に実施してほしい。

※卒業生が勤務する施設での社会貢献・地域貢献を行うことで更に強化できるのでは？

(11). 国際交流(必要に応じて)

【評価項目】(評価=適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
留学生の受入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っているか	3
受入れ・派遣、在席管理等において適切な手続き等がとられているか	4
学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	3
学内で適切な体制が整備されているか	3

① 課題

留学生の卒後の受け入れ先が少ない。

※28年度1名採用(過去2名)

② 今後の改善方策

留学生を受け入れてくれる就職先の確保に努め、体制を強化する。

※採用された留学生は積極的に動いていた。

③ 特記事項

28年度入学者なし。

④ 学校関係者評価委員会コメント

・留学生の受け入れは18歳人口減少に伴う今後の少子化をふまえて、受け入れを強化していかなければいけない。

・栄養士の場合、言語能力が多く求められるので留学生向けの入学案内書等の整備が必要と感じる。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

具体的な目標や計画は定められ実行されており、一定の評価が出ている。

昨年と同様、個々の生徒対応において教職員側のスキル不足が課題として継続している。

教職員が学校で働く上で

「どういう貢献をしているのか？」

「どういうことを目標とふまえて生徒に指導していくのか？」を明確に考え、

教育方針でもある【あきらめない教育】を実行するための教職員教育が

今後も重要と推測される。

全体を通じた委員コメント

- ・栄養士に求められる現場力の向上をふまえた授業の実施を昨年提唱したが、社会貢献や地域貢献を取り入れる機会が増えたことは評価できる。あとはより現場に近づけた指導内容を行い、生徒に還元し続けることが今後の学校運営において重要になると考えられる。
- ・退学者・休学者のタイプ、その理由別での対応方法については早急に取り入れるべき事項。また、卒後教育の充実を図ることで業界に貢献できる人材を育てることができる。さらなる退学率低減、離職率低減のため、コミュニケーション教育の充実と実践が必要。